

令和3年度 山内図書館利用者フォーラム 会議録

1. 日 時 令和3年10月8日(金) 14:00~15:30

2. 場 所 山内図書館やまちゃんおはなしの部屋

3. 出席者

利用者フォーラムメンバー

貞廣典子代表(おはなしボランティア虹の部屋代表)、宮澤高広副代表(フリーライター)、横溝潔委員(郷土史家)、松下ユウ子委員(おはなしフェスティバル実行委員長)、徳榊崇子委員(リペア一期の会代表)、中川一人委員(山内地区センター館長)、西川正洋委員(横濱本よみ亭代表)、角田啓子委員(美しが丘保育園園長)

事務局

椛木功(有隣堂本部)

村田公宏(三洋装備)

古川たか子、味元敬子(山内図書館)

*新型コロナウイルス感染予防のため、通常年2回行っている利用者フォーラムは感染対策を徹底したうえで、本年度はこの1回とする。

4. 案 件

- (1) 横浜市山内図書館令和2~3年度の報告
- (2) 横浜市山内図書館の開館45周年事業について
- (3) 意見交換、その他

5. 概要

- (1) 横浜市山内図書館令和2~3年度の報告(古川館長)

新型コロナウイルスの蔓延により、令和2年は図書館運営に大きな影響を受けた年となった。3月2日から開館時間の短縮や書架への立ち入りを禁じるなどサービスが限定的なものとなり、3月7日に開催を予定していた作家津村紀久子さんの講演会も、延期を余儀なくされた。4月11日から5月26日までは臨時休館となった。感染防止対策をとり5月27日から開館の運びとなったが実施するサービスは貸出・返却のみで、開館時間も9時30分から17時までの短縮でのスタートとなった。その後、段階的にサービスを再開。6月24日からは密にならないよう、座席数を減らすなどして書架の利用が可能になった。全面的にストップしていた事業も参加者数を定員の半数にし、申込制にするなどして7月から定例おはなし会を再開した。9月に修理ボランティアの方の活動も再開。修理本がたまってい

たので活動日を増やして対応いただいた。あざみ野ブックカフェも再開し、初回（9月）は元ひろたりあん通信編集長の宮澤高広さんに「舞台は青葉区～わが街今昔～」と題し、映画や小説に出てくる青葉区のスポットや街の今昔についてお話いただいた。12月には「認知症が心配になったら」と題し、横浜総合病院臨床研究センター長の長田乾先生に、自分や周りの人が認知症かもしれないと思ったらどのように接するのがいいのかをお話いただく。大型講演会も開催にこぎつけ、12月に青葉区役所で「新型コロナウイルス対策～これまでとこれから～」と題し、感染症の専門家・国際医療福祉大学教授の和田耕治氏に講義いただく。感染対策のため、会場での受講とウェビナー配信の2本だてで行った。令和3年に入っても、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が出され、開館時間を短縮し8時間閉館とするなどの制限を受けながらも、事業の多くを再開。定員は通常の半分にするなど対策をとりながら、4月に「春の特別おはなし会（英語のおはなし会）、5月に「ふるさと青葉の紙芝居」、6月に「大人のためのおはなし会」を開催。8月には2年ぶりに「夏のおはなし祭り」を再開した。入場制限を設けざるを得なかったため、通常は2日間の開催を5日間とし、密にならないよう配慮しながら開催した。また、新しい試みとして、地域のフリーペーパーの編集部スパイスアップやかながわ子ども合衆国（子どもたちが仮想の町を運営し、労働や納税、消費などの体験を通じて社会の仕組みを学ぶ活動）加盟団体「チッターノ・チッタ」と連携し、週末の2日間ミニマーケットを開催。青葉区産の野菜や子どもたちの手づくり雑貨の販売などを行った。

新しい取組として、青葉区地域子育て支援拠点ラフルが主体となって始まった子育て応援系 YouTube チャンネル「なしかちゃんねる」に協力。こどもたちと一緒に楽しむ手遊びや親子で読みたい絵本などを紹介することになっている。

令和2年度の入館者数と貸出冊数を数値でみると、コロナ前と比べて、入館者数は減少傾向にあるが、貸出冊数は増えている。外出回数を少なくするためか、1回に6冊まとめて借りる傾向にある。本の有料宅配はコロナ禍の中、有用なサービスであるが、郵便局の要請を受け、ゆうパックで郵送することになり令和3年1月に料金を改訂。値上がりとなったため、登録者数、郵送回数も減少傾向にある。託児サービスは再開できていない。再開時期の目途は立たず、再開できるとすれば令和4年4月以降になると思われる。

令和3年8月から朗読 CD の貸出が始まった。利用者フォーラムでご意見をいただいていたが、青葉区で予算がつき、実現の運びとなった。

感染症対策としては、座席数を減らし、座席の間にパーテーションを設けるなどしたほか、本の除菌器を導入した。また、トイレに除菌クリーナーを設置した。今後自動水洗の手洗い蛇口を設ける予定である。

- ・コロナ禍により、地域の祭り、牛込の獅子舞なども去年（令和2年）、今年（令和3年）と中止になっている。忘れてしまう部分がでるのではないかと危惧している。
- ・おはなしフェスティバルも昨年に続き、本年度も中止、動画を作成して配信することに

なった。

・学校の図書室でも本を借りることはできるが、図書室内で座って本を読むことができないところがあるとも聞いている。

➡横浜市立図書館は、令和3年3月末より、電子書籍のサービスを開始した。1人2冊まで2週間借りられる。インターネット環境があれば利用できるのでは、お試しいただきたい。

(2) 横浜市山内図書館の開館45周年事業について（古川館長）

山内図書館は令和4年に開館45周年を迎える。周年事業を企画しており、事業のアイデアやご希望があれば、提案願いたい。

・青葉区内の郷土史（災害史）についての展示を行ってはどうだろうか。区内には江戸時代に天然痘が流行ったことを伝える石碑が残っている。関東大震災のとき、うちは明治20年ごろに建てられたかやぶきの家であったが土台がずれたといい、何軒か倒壊した家もあったという話を聞いている。文化4年に建てられた驚神社の石の鳥居も落ちたという。東日本大震災のときは、驚神社の灯籠が倒れた。横浜市全体での大きな出来事は記録されていくが、こうした地元の話は資料が残りにくい。伝承も含めて、聞き取りや資料の提供を呼びかけ、展示を行ってはどうだろうか。

・荏子田の人で関東大震災のころを手記に残している人がいる。荏子田に電灯がともった翌日に関東大震災が起こり慌てて母屋を飛び出し、電柱にしがみついた話や、疎開でやってきた女の子のおかっぱ頭が流行になったことなどが記されている。

・行政資料は多く残っているが、こうした民間の話は残りにくい。

・村の風景をたどる歴史散歩はどうだろうか。石川坂上（国道246号）から王禅寺に抜ける道は、江戸時代石川村のメインストリートだった。西勝寺や驚神社など村の重要な神社仏閣が沿道にあり、高札場後跡もある。昔からの家も残っている。

・いろいろなイベントを行っているが、講演会やおはなし会は知識をインプットするもの。アウトプットする企画があってもよいのではないだろうか。コロナ禍で疲れた気持ちが外に向くもの。「参加して、やってみたい」となるイベントがあると面白いのではないだろうか。たとえば、先ほど話のた歴史散歩に参加する前に、青葉区の歴史に関する本のビブリオバトルを行うなど。図書館のイベントで「Life with Reading」が面白かった。第2、第3バージョンでやってもらえると面白いかもしれない。

・大人の部活の企画はとまっているのか。

➡コロナで企画はとまっている。再開して、歴史や読書関係のクラブなど立ち上げられたらと考えている。

・コロナ禍のため、まだ、大勢の人が一堂に会しての企画は難しいのではないだろうか。

例えば、館内にカメラを用意して、山内図書館の利用者におすすめの本を紹介してもらい、それをユーチューブや館内のモニターで流してはどうだろうか。

- ・語るのが苦手な人は、好きな本を見せるだけでもよいかもしれない。
- ・45周年なので、45人に参加してもらえるとよい。

・CDブックを作成してはどうだろうか。朗読や読み聞かせのグループ、高校の放送部などの人たちに、おすすめの話を録音してもらい、貸し出してはどうだろうか。CDブックの貸出タイトルを増やすこともできる。

- ・著作権の問題があるが、青空文庫のものならできるかもしれない。
- ・青葉区を舞台にした小説に佐藤春夫の『田園の憂鬱』があるが、そのスピンオフ作として『お絹とその兄弟』という作品がある。この作品の中には、鉄と市ヶ尾の昔の風景が描写されている。大正時代に活躍した地元の作家広田花崖の『田園』もある。地元の作家、地元ゆかりの作品という切り口でどうだろうか。

(3) 意見交換、その他

・オープン修理がコロナ禍のため昨年、今年と中止になっている。月1回、玄関に近い場所で修理を行い、利用者に修理の様子を見てもらっていた。本の取り扱いについて考えてもらうよい機会となっていたが、再開の目途が立たない。

・修理ボランティアのメンバーを増やしたい。家庭の事情でメンバーが減っている。修理講座に参加してもらった上で、メンバーに加わってもらっているが、講座が開けていないので、図書館と相談していきたい。

・年1回秋に行っている「本の病院」がやはり昨年今年と中止になっている。毎年、楽しみに待ってくださっている方もいたのに残念である。2年行わないと、「もうやらないんだ」ということになってしまいそうなので、なんとか今期のうち、2月か3月までには行いたいと思っている。

➡修理した本を、修理を依頼した人がどういう思いで修理を依頼したかと修理方法を一緒に紹介展示してはどうだろうか。

・中途視覚障害の方への対面朗読を行っている。中途障害の方は点字を学んでいないので点字の本が読めない。サピエなどもよいが、もっとそういう人たちが使いやすい身近なサービスはないだろうか。

配布資料：会議次第、CDブックリスト、横浜市山内図書館 2020年図書館利用者満足度調査報告書（抜粋）、やまうちとしょかん図書館だより（2021年秋号）